６０周年の次を考える

ＯＳＦ会　安藤　和正

私は、中学２年で入団して早や五十数年も過ぎ、人間で言うところの還暦も五年ほど過ぎてしまいました。

やはり、海洋少年団の一番の思い出は、全国大会に参加したその時々、その土地ごとに出会った人、印象深い事の思い出です。

そして、この夏に実行委員としてお手伝いをして、今後の全国大会を考えると、三年に一度程度の開催で良いと思うし、やはり各地で回り持ちする形が好ましく、東京だけに限定して進めるのは、良くないと感じています。

現在は、ＯＳＦ会に所属し時々訓練に参加していますが、やはり皆さんが感じているように、団員の減少と年頃のリーダーが不足している事が心配で、これからの大田区団をどの様に進めるのか、ＯＢだけの団にならない工夫を、一緒に考えたいと感じています。

大田区団の全ての関係者が、今すぐに具体的な方策について真摯に取り組まないと、遠からず心配が現実となる事を、大変に心配しています。

新参ですが、これから活躍

ＯＳＦ会　安倍　賢司

この度は、大田区海洋少年団の結団六十周年、大変おめでとうございます。

私自身も団の誕生の翌年に生まれ、今年の二月で還暦を迎え、先だってはＯＳＦ会の大勢の方々から、内山・大井会員と共に過分なお祝いを戴き、とても感謝しております。

かの安倍清明は、若い時ではなく実際に活躍されたのは、六十歳から八十五歳迄の 25 年間だそうで、まさしく今年の自分ではないかと、何か運命めいている様な不思議な気持ちで、何故かダブらせている感があります（無理矢理かと）。

大田区団には、小学校５年くらいに入団し中学１年の春に横浜に引っ越し、高校２年迄は活動に参画していたと記憶していますが、社会に出て（大阪に本社がある、機械工具商社の営業部門）、そして家庭を持ってアレコレしている間、暫く団活動から離れてしまいました。　30 年前に家業の工作機械販売業を継ぎ、京浜地区の工場を廻って居ります。

以前より、現・安藤団長から何度かお誘いがあり、３年前よりＯＳＦ会のメンバーに入れて戴き、今に至っております。

地元の横浜市金沢区では、地元消防団・防犯指導員・町会・子供会・老人会・氏子会等々、地域の皆さんにと共に活動をして参りました。

会員の皆様と同じで、仕事との両立を考え、次回の七十周年そして更に八十周年を目標に、頑張らせて戴ければ幸いと存じます。

大田区海洋少年団　育英会会則

第　1　章　　総　　則

第　1条　　本会は、大田区海洋少年団育英会と称する。

第　2条　　本会の事務局は、大田区海洋少年団事務局に置く。

第　3条　　本会は、大田区海洋少年団の育成の為、協力賛助する事を目的とする。

第　4条　　本会の目的達成の為、次の事業を行なう。

(1)　団育成の為に必要な、事業並びに援助。

(2)　会員の研修会・見学会・広報発行等。

第　2　章　　組　　織

第　5条　　本会は、次の会員により組織する。

(1)　正 会 員　　(団員の父母)

(2)　賛助会員　　(本会の趣旨に賛同するもの)

第　3　章　　役　　員

第　6条　　本会の役員は、次の通りとする。

(1)　会　　長　　1　名

(2)　副 会 長　　若干名

(3)　会　　計　　2　名以上（1名は団より選出）

(4)　理　　事　　若干名

(5)　会計監査　　2　名

第　7条　　役員の選出方法は、次の通りとする。

(1)　会長・副会長・会計・会計監査は、総会に於いて選出する。

(2)　理事は会員中より会長が推薦し、総会の承認を求める。

第　8条　　役員の任務及び任期は、次の通りとする。

(1)　会長は会務を統括し、会を代表する。

(2)　副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はその代理をする。

(3)　理事は役員会に出席し、重要事項の審議運営にあたる。

(4)　会計は、団及び当会の会計を統括し、各基金を管理する。

(5)　会計監査は会計を監査し、総会に於いて報告する。

(6)　役員の任期は夫々2ヵ年とするが、その重任及び再任を妨げない。

第 4 章　会　議

第　9条　本会の会議は、次の通りとする。

(1) 定期総会は毎年１回、事業年度の終了後３ヵ月以内に会長これを招集し、事業及び決算報告並びに予算等を審議し、出席者の過半数で決定する。なお、必要ある時は、臨時総会を招集する事ができる。

(2) 役員会は、必要ある毎に会長が招集し、議案の審議決定等会務の円滑なる運営を行なう。

第 5 章　会　計

第１０条　本会の経理は、会費並びに寄付金等により執行する。

(1) 正会員の会費は、月額１口２００円とする。

(2) 賛助会員の会費は、年額１口２，０００円とする。

(3) 本会の事業年度は、10 月 1 日より翌年 9 月 30 日迄とする。

付　則

(1) 本会則は、昭和 49 年 7 月 1 日より施行する。

(2) 本会に役員会の議を経て、顧問・相談役を置く事ができる。顧問・相談役は重要事項の諮問に応じ、求めに依り役員会等に出席し、意見を述べる事ができる。

(3) 本会則は、平成 15 年 12 月 1 日より改定施行する。

音楽隊３０周年を迎えて

音楽隊副隊長　東葭　良男

大田区海洋少年団との関わりを持ってから、音楽隊の３０年間は私にとっては、やはり長い年月だったと思います。　その間に、数多くの隊員の入団がありました。　当初は、当然の事ながら皆は昭和生まれの隊員でした。

それが、ある日平成生まれの子どもが、隊員として入団して来た時には、ずいぶん驚いた感じが致しました。

ところが、今では全員が平成生まれの隊員ばかりになって、良くも長い間ガンバッテ来たものだなと、つくづく感じ入ってしまいます。

日本海洋少年団連盟の、第４９回全国大会は四国・愛媛県の松山市だったと思いますが、それ迄は日本連盟音楽隊としては、西日本で行われる全国大会には、参加出来ないものと決めて居りました。

次の５０回大会は、東日本側で行なわれるものと思っていましたら、なんと次も続けて西日本で、しかも遠く九州・鹿児島県での開催に決まました。

また、音楽隊役員・指導者として、参加出来ないものと思っていましたが、ぜひ鹿児島大会に参加したいと言う、隊員たちの強い希望に押される形で、役員・指導者・父母会も参加する事が決まりました。

その、待望の第５０回鹿児島・全国大会では、パレードの先頭で演奏と行進を行ないました、また開会式に於いては、全国の海洋少年団の入場行進、及び開会式の式典曲を演奏させて戴き、隊員たちの想いをかなえる事が出来ました。

二年後の今年（平成25年）は、久し振りの東京都での開催となり、第５１回東京大会では今大会唯一の音楽隊として、開会式の入場行進曲と式典曲を演奏し、また閉会式の式典及び表彰式では、得賞歌など頑張って演奏して参りました。

今後に於いては、学校のクラブでもなく、またカルチャースクールでもない、地域に根差した音楽隊として、地域の多くの皆様方に応援を戴き、地域の文化の発展と継続に対して、末永く貢献出来たら良いと考えます。

海洋少年団この時代にあって期待されるもの

本隊父母会長　亀元　智仁

大田区海洋少年団結団６０周年おめでとうございます。脈々とこの歴史を受け継ぎましたこと、団関係者及び協力者の努力の賜物と敬服しております。

“最近の若者は・・・”という言葉は、古の時代よりずっと言われているようです。私たちの時代もバブルの申し子で、同じように言われていました。そんな私が最近の若者をあえて評すると、学業優秀ではありますが自己中心的な思考が強く、問題解決能力も低いように思われます。

しかしながら、これを以って彼らを非難するのは酷であり、その責任は彼らを育んできた家庭や教育や社会にあるのだと思います。このような時代にあって、海洋少年団活動はより重要性を増しているはずです。

自然を相手にする。広い世代の生身の人間に向かい合う。楽しくないことも多いことでしょう。思い通りにいかないことも多いはずです。

・海洋少年団で自然の恵みや厳しさを感じ取ろう
・海洋少年団で筋肉痛になろう
・海洋少年団で叱られよう
・海洋少年団でけんかしよう
・海洋少年団で自己表現して伝えてみよう

これが人間形成のステップになるはずです。

海洋少年団自身も、子供達の多様性を受容して、より多くの人材を輩出していかなくてはなりません。

・競技性を競うのも海洋少年団
・フォロアーシップを学ぶのも海洋少年団
・リーダーシップを発揮するのも海洋少年団
・勉強の合間に気晴らしで海洋少年団
・友を増やすのも海洋少年団
・自然と接するのも海洋少年団

いろいろな海洋少年団への思いがあっていいと思います。

最後に、先般全国大会が開催され、私も運営スタッフとして参加してまいりました。閉会式後、海洋大学でのお別れの際には、バスの中から全国の団員が手を振り帽子を振り、大きな声で「さよなら」と叫ぶ、そんな美しい姿が、まだこの国にもあったんだなと感動しました。

これからも微力ながら大田区海洋少年団を通して青少年育成に取り組むと共に、私自身も成長させていただきたいと思います。

私と音楽隊

音楽隊副隊長　阿部　忠生

私は平成１１年の７月に音楽隊に入隊しました。その時私はひと月前に５５歳になったばかりで、勤めていた会社の役職定年を迎え、それまでの多忙な仕事から解放されてようやく定時に家に帰れるようになっていました。

ある日、町内会の回覧板が回ってきてその中に「Hello!ミュージック吹奏楽団団員募集」というチラシが目に留まりました。この名称は、音楽隊の隊員募集をしやすくするために佐藤隊長が音楽隊につけた別名（愛称）でしたが、団の練習場所が私の住まいに近いこともあり、また団体の名称にも親しみを感じて佐藤隊長と連絡を取りました。これをきっかけに音楽隊に入隊して子供たちと一緒に練習を始め、半年後くらいから佐藤隊長の要請で指導者の一人として活動することになりました。

入隊当初は海洋少年団について何も知らず、また大田区海洋少年団の長い歴史や地域との深い結びつきなども承知していませんでしたので、いろいろ勝手なことを言って周りの方々にご迷惑をかけたことを今になって反省しています。

平成１７年愛知県豊橋市で開催された第４７回全国大会の時に初めて総括責任者を担当することとなり、その際佐藤隊長から副隊長を命じられ、以来現在まで東葭さんと一緒に副隊長を務めています。

平成１７年から佐藤隊長が以前から構想をあたためておられた「こどもブラスバンド教室」がスタートし、私も２年目から講師の一人として参加しました。周辺地域の小学生に吹奏楽に親しむ機会を提供して地域文化の向上に寄与するとともに、こどもブラスの修了生に音楽隊に入隊してもらうことにより、それまで苦労していた隊員不足も徐々に解消し、最近は小学生から高校生隊員も含めて２５名前後の隊員が在籍して年々充実した活動を行っています。

また、音楽隊の活動を支えるもう一つの力となっているのがサーズデイ・ブラスバンドの存在です。サーズデイは音楽隊が発足して７年後の平成元年に音楽隊の隊員の父母を中心としてスタートし、音楽隊への活動協力を行いながら、バンド自体の演奏活動も積極的に行ってきました。

当初は地域の施設のイベントでの演奏が主でしたが、平成１５年からバンドの自主コンサートも開催するようになり、昨年までに９回を数えています。私は現在副代表として加藤代表と共にバンドの運営に携わっています。

これからも健康が続く限り、海洋少年団・音楽隊・サーズデイの発展のために微力を尽くしていく所存です。

海洋少年団と私

音楽隊父母会長
伊勢谷真由美

創立六十周年おめでとうございます。

私の一番心に残る、想い出をお話しする前に、何故子供が入隊したのかということを、思い起こしています。

子供が入隊したのは、六年前に「こどもブラスバンド」に入ったのがきっかけでした。では、何故こどもブラスに入ったのか？

私の家は、旧家で本家に当たります。　昔から、遺族の家というシールが、玄関に刷られていました。

子供の頃、どう云う意味なのか不思議に思い、祖母に尋ねました。　すると「戦争で亡くなられた、兵隊さんのいる家だよ。」と教えてくれました。　私の祖父は、九人兄弟の長男で、お酒造りの杜氏をしており、殆んど家におらず、明治生まれの祖母がお嫁にきて、家を切り盛りしていました。

そんな時、六男の末っ子の大叔父が、戦争で沖縄へ行くことに決まり、沖縄の海で亡くなりました。　実家の仏壇から、セーラー服を着た、凛々しい二十五歳の青年の写真が、いつも見下ろしています。

今年の全国大会が、東京で開催された時のことです。　次々に全国から集まってきた隊員が、入場行進曲と共に入ってきて、ある国の隊員が、セーラー服で敬礼している姿を見た時、「そうだ」大叔父の写真と一緒だと思いました。

私の子供は、「こどもブラスバンド」に入講することを、最初は嫌がっていましたが、私の勧めで「やってみようかな」と、思ってくれました。いま思うと、その大叔父が導いてくれたように思います。

また、その入講する機会を与えて下さったのは、佐藤隊長との出会いでした。

こどもブラスの見学会の時、何気なく隣に座られたおじいちゃんが、「子供の音は、半音符遅れがちになるんだよね。」と、ポツリと呟かれました。　私は、この人はただ者では無いと思いました。　後になってから解ったのですが、それが隊長でした。

私は、この方になら、子供をあずけられると確信しました。　そうして、「こどもブラスバンド」を二年間終え、上のクラスの海洋少年団音楽隊に入隊しました。

今年の全国大会で、あこがれのオリンピックセンターでの入場行進の舞台で、演奏している素晴らしい光景を見られて幸せでした。　また、練習船の海王丸に乗れて、見学できた事を嬉しく思います。

最後になりましたが、佐藤隊長、長い間ありがとうございました。

また、これからも母子共にご指導の程、宜しくお願い致します。

音楽隊とサーズデイ・ブラスバンド

サーズデイ・ブラスバンド代表
育英会　加藤　一恵

私が大田区海洋少年団に出会ったのは、少年団が30周年記念式典を迎える半年程前の時でした。　長女が小学校４年生（当時10歳）で音楽隊に入団、日本連盟音楽隊を杉並団から大田区団へ移して間もない頃でした。

当時、団長をされていた佐藤元省先生（大田区教育委員）が、大田区の子供たちに音楽の力をつけて貰おうと、連盟の指揮者をされていた堀籠次男・種村二良（元・海上自衛隊音楽長）両先生方が、たくさんの楽器と共に大田区団に移って来ており、30周年を機に音楽隊の増員募集を行っている時でした。

本隊はその当時、羽田に海上保安庁の家族寮があった事もあり、同庁のお子さん達も多く隊員としていました。

30周年式典は、大師橋の下で盛大な式典となり大田区団最高の時、見事なものでした。

音楽隊もこの式典が初デビューとなりました。

音楽隊も何年かは順調でしたが、徐々に卒団者と入団員のバランスがとれなくなってきました。　佐藤先生の案で団員の父母に楽器を習わせて、音楽隊のサポートに一役買ってもらおうと、平成元年にサーズデイ・ブラスバンド（以下ＴＢＢ）が結成されました。

ＴＢＢ初代代表の赤星三雄氏が、当時の練習日が毎週木曜日だった事からＴＢＢと名付けました。　ＴＢＢ発足当時ほぼ楽器経験初心者で、先生方からもご指導頂き、音楽隊の子供たちからも楽器の「いろは」を教えてもらっておりました。

ＴＢＢ結成から10数年後、長年ご指導頂いた堀籠先生がご逝去され、その後のＴＢＢの指導者探しで、佐藤先生共々大変苦労しました。

しかし、音楽隊は地域の小学生中心の、こどもブラスバンドを新たに結成し、本間道夫先生にご指導頂くことになり、隊員不足は解消されました。

一方、ＴＢＢは指揮者探しに苦労したものの、遠藤憲一氏→勝川本久氏→今川英悟氏（現ＴＢＢコンダクタ）と、何名もの素晴らしいコンダクタに出会い、区内のブラスバンドとの友好関係を作り、会員不足をお互いの会で助け合う関係を作ることができました。

現在ＴＢＢは、区内の老人施設・福祉施設などの慰問演奏会を中心に活動すると同時に、海洋少年団音楽隊の子供たちへの演奏指導や演奏協力、卒団した子供たちの受入れをＴＢＢで行ない、ＯＢ／ＯＧとして相互協力出来るような体制ができあがり、ＴＢＢ結成当時の佐藤先生の理想とするかたちに、ようやくなってきたように感じます。

ＴＢＢも初代代表の赤星氏より私が受け継ぎ、早いもので２５年が過ぎました。　現在ＴＢＢは10回目の自主公演に向け頑張っています。20歳代から70歳代まで年齢層の広い社会人バンドとなり、「大田区に音楽を」と始めた佐藤先生の意志を継ぎ、守る事で夢中で来ましたが、関わった月日は30年以上経過し、継続は力なり、今後の発展を祈ります。

公益社団法人

日本海洋少年団連盟

大田区海洋少年団

結　団　６０　周　年
音楽隊 創立３０周年

日　時　　平成２５年１０月２０日（日）

PM１：３０～PM４：３０

会　場　　大田区・萩中集会所

主　催　大田区海洋少年団　　大田区海洋少年団育英会

共　催　大田区海洋少年団父母会：ＯＳＦ会(卒団者の会)

これまでの周年事業について。

大田区海洋少年団は、昭和27年（1952年）7月に結団して以来、昭和37年には多摩川に於いて、10周年記念水上パレードを挙行、昭和42年には15周年式典、昭和49年には20周年記念誌の刊行、その後も節目となる10年毎に、記念行事を挙行致しました。

昭和59年4月22日には結団30周年を記念して、午前中音楽隊を先頭に街頭パレードを実施し、正午からは巡視艇「ゆりかぜ」を観閲艇として、水上署艇「いなずま」の他多くの舟艇に、カッターが加わって水上パレードを行ない、その後の記念式では団歌と団章の制定と発表、翌5月には羽田東急ホテルにて「感謝の集い」を開催、昭和62年に30周年記念誌【三十歳のあゆみ】の発刊をして参りました。

平成4年には、結団40周年記念式典を行ない記念事業の一環として、翌年3月には以前から友好関係にある、横浜海洋少年団にも参加を呼びかけて、返還から満25年周年となる小笠原諸島を親善訪問して、島民との交流行事・記念植樹・ホエールウォッチング等々に、総勢30数名を派遣して盛大に挙行致しました。

ここ迄の詳細につきましては、既刊の40周年記念誌【四十歳のあゆみ】に記してございますので、改めてご覧戴きたいと存じます。

また、平成8年には40周年記念誌の発刊に漕ぎ着け、その後平成15年には今までに最も大きな節目となる、結団50周年（音楽隊30周年）行事を、ＯＳＦ会が主体となって盛大に挙行し、その10年後の平成25年（2013年）10月、結団から満61年を経過した事を報告する為、【結団60周年・音楽隊創立30周年】記念式典を、団・育英会・父母会並びにＯＳＦ会が共催し、日本海洋少年団連盟・草刈会長殿、大田区松原区長殿を始め、多数のご来賓をお迎えして挙行致しました。

その時の模様は、以下の文中に記録写真・書面等で、様々にご案内申し上げていますが、記念式典及び祝賀会にご来臨の方々は、別紙にてもご紹介致しております。

なお、結団60周年記念式典では、第51回全国大会の開催に際して、特に多額のご寄付をされました団育英会の高橋弘師様に、日本海洋少年団連盟・草刈会長から感謝状が贈呈されました。

その他に、安藤日出男団長と三渡副団長には永年功労章、増田敏男副隊長と音楽隊小杉翠・関　太一の両トレーナーに指導者表彰、音楽隊下村莉恵・梅本瑠依の両隊員には団員表彰が授与されましたので、ここに書き加える次第であります。

今後とも、育英会・地域社会そして友好団体の皆様には、次の周年事業の実施に向けて、変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げる次第です。